ランス鋲とは

　ランス鋲は1960年頃に開発されたカシメ部材です。脚の先端部分に涙型の穴を開けることで、より軽い力でのカシメが可能となり、当時のプレス加工品のカシメ製品では不可能であった厚みのある部材を留める事が出来るようになり、また頭部形状を大きくする事で、その商品価値を高めることに成功しました。

　鉄素材で半丸形状にしたランス鋲を鞄の底鋲として使用したり、アルミ素材のランス鋲を鞄の取手の補強や飾りとして使用したりと、主に鞄のパーツとして、世に広まりました。

　現在では、軽量のアルミ製ランスリベットは鞄のみならず、ファイルの金具など文房具のパーツとしても使用されており、又よりデザイン性を高めたユーザーさまの期待に応え、革製品のオリジナルリベットや、飾りリベット、スタッズとして使用されています。

http://www.kanem.com